

名戸ヶ谷ビオトープだより

第36号

2009年4月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

畦補修とBゾーンの木道工事

ビオトープだより第35号の中ですすでにお知らせしましたが、2009年1月11日に畦直しをしました。田植え前のこの時期に何故畦直しをするのか、少し解説します。◎田圃の畦の4つの役目

- ① 水田の水管理:水を保つため。特に不耕起栽培では水位を100mm以上に保つことが望ましいとされています。
- ② 作業道:田植え、刈り取り、運搬で畦の上を歩きます。この水田は昔は沼沢地。土は軟らかく、常に補修が必要。
- ③ 生き物の棲家:名戸ヶ谷ビオトープの水田では農薬・化学肥料をえませんから多くの生き物が棲んでいます。畦は生き物のお宿となっています。ザリガニの繁殖には困りますが、貴重なアカガエルにはよいお宿です。
- ④ 植物の育つ場所:水田には多くの植物が発見できますが、その多くは畦に育ちます。農薬を使わないこの水田では新しい植物が育つことが期待できます。さらに立派な畦が出来れば、昔のように枝豆(大豆)を植えてみたいと思います。(才川寿磨)

ザリガニ釣り場からの回遊木道を新設しました

Bゾーン南側は2005年と2006年に二期に分けて新設しましたが、その先から中央木道まで繋げて回遊できるようになりました。2月から準備を始め、3月の合同作業日に多くの皆さんの協力で一気に完成しました。初めての方も昔の道具を使っての作業に汗を流していただきました。これで畦が固まることなく、虫や蛙の避難場所も増え、来年はアカガエルの産卵が増えるかも知れません。ご苦労さまでした。(小笠原 智)



ホタル水路の整備



今年初めての合同作業が2月21日に行われました。この日は19名もの会員が参加して、ゴミ収集やホタル水路の整備などをしました。昨年この時期に新たなホタル用の水路を作り、ホタルの幼虫の放流を試みました。残念ながらホタルの姿を夏に見ることができませんでした。でも、これで諦めるわけにはいきません。今年も引き続きホタルの復活を目指すつもりです。(佐々木 光正)

ニホンアカガエルのオタマジャクシ誕生

ビオトープでのニホンアカガエルの産卵は2月初めから中旬まで続く。そして3月に入ると、オタマジャクシの誕生が始まる。今年はAゾーンで3月3日から誕生が始まりました。寒天状の卵の中から出てきた時は、長さ5mmくらいの黒色で、すぐには泳げないので卵の上につかまっています。2~3日で泳げるようになります。雑食で主に水中の藻などをたべて育ちます。5月になると30~40mmに成長し、カエルに変身します。ビオトープにはアマガエルやシュレーゲルアオガエルも居ますが、カエルになるのは7~8月で、ニホンアカガエルが最も早く誕生します。天敵はサギ類、アメリカザリガニやヤゴなどで、カエルになるのは数パーセントです。(篠崎 将)



ヒメヘビイチゴの移植

ヒメヘビイチゴは千葉県絶滅危惧種に指定されている植物です。ビオトープでは、北東端の水路脇に自生しています。ヒメヘビイチゴを絶やさないために、Bゾーンに一部を移植し分布域を広げていくことを考えています。既に三年前に実施しましたが、水道工事の際に被害を受けましたので、今回再度実施し、三箇所に移植しました。ところで、移植作業の途中で嬉しい発見がありました。三年前の移植株が工事被害にもめげず細々ながらも葉をつけていたのです。4月末には幾つかの花が見られるものと期待しています。(佐々木光正)



アメリカザリガニの博物誌

名称：アメリカザリガニ (分類 エビ目ザリガニ 下目アメリカザリガニ科)

俗称：ザリガニ、エビガニ、マッカチン、マッカーサー、など

生い立ち：1927年、北アメリカ南東部、ミシシッピ川流域から神奈川県鎌倉市の鎌倉食用蛙養殖場がウシガエルの餌として20匹輸入したのが持ち前の生命力で日本各地に広がった。

分布：日本では北海道を除く全土に分布。また、アメリカ南東部の他、ハワイ諸島、アフリカ東部にも。

形態：形はエビに似ているが、全身が太短く、赤褐色で殻も固い。ハサミや脚はとれても再生し、脱皮の度に大きくなる。

生態：産卵期は5～11月で、メスは交尾後受精卵を腹部にある腹肢で、1.6mmくらいの卵を100～600個抱える。卵は一ヶ月でう化し、2度の脱皮後、メスの体から離れて生活する。

食性：雑食性で藻類、水草、小魚、オタマジャクシ、水生昆虫などなんでも。エサがないと共食いも。

天敵：ウシガエル、サギ類、カメ、オオクチバス、など。ビオトープではダイサギのエサになっている。
(篠崎 将)



給食交流会に招かれて

2月23日、名戸ヶ谷小学校から招待を受け、篠崎会長以下6人が交流会に参加しました。校長室で待つ私たちを、田植えや脱穀作業で顔見知りになった5年生の子どもたちが迎えに来てくれました。名前を呼ばれ、手を引かれながら、2組に分かれて配膳の整った教室へ。献立は、ごはん、豚肉の味噌焼き、焼きビーフン、けんちん汁、いちご、いり大豆。ごはんは勿論、子どもたちが収穫したビオトープ米です。デザートの一いちごも地元産とのことでできるだけ地産地消を目指した献立作りをしているそうです。

食事をしながら「休み時間にはどんな遊びをするの」「趣味はなに？」など会話を交えた自己紹介。女の子からは「この中でどの子が一番好みですか？」などと答えに窮する質問もありました。校長先生のお話では来年度の学習指導要領の改訂により総合学習の時間も削減され、米作りに関わる時間も検討課題だそうです。それでも、「米作りのプロセスを体験することは意義深く、なくしたくない」との言葉にビオトープと名戸ヶ谷小学校の結びつきが深まっていることを感じました。「放課後や休日にビオトープを遊び場にして子どもたちが元気に育って欲しい」という思いを胸に学校を後にしました。

(佐藤郁子)



窪田孝志さんを悼む

突然の訃報でしたが、ビオトープの活動に献身されていた窪田孝志さんを失いました。ライフケア東葛で2月26日、27日の両日に亘って行われた通夜と告別式には会からも大勢の会員が参列し、髭面の窪田孝さんに別れを告げました。あらためてここに一言「悼む」コトバを掲載します。



●突然の訃報に返す言葉もありませんでした。あなたは責任感の強い人で、ビオトープで行うどのような作業でも自ら進んで行い、人任せに出来ない人でした。田植え、草取り、稲刈り、木道工事、どの場面でもあなたの姿が目に見えます。生前のご活躍に



深く感謝いたしております。髭の中のやさしい笑顔が忘れられません。窪田さん安らかにお休みください。(篠崎 将)

●昨年の暮、元気に米の配布作業をしていた姿が今も目の前に在ります。何事もきっちりとやる方でした。作業道具の管理、雀対策のネットの保管、草取り、落ち穂拾い、田植え用の線引き、など、どの作業にも思い出がいっぱいです。不耕起栽培の水田の開墾から一緒に作業した一人として最も頼りにしていた人が居なくなり、残念です。窪田さんの遺志を継ぐことが私たちの役目であり、今後の私たちの活動に活かしていきます。(才川寿磨)

●ビオトープでの農作業や木道工事作業で、若い私がお願いすることでも、いつも丁寧に、そして完璧に進めて下さいました。本当にありがとうございます。今回の木道作業をしながらも窪田さんを思い出し、寂しくなりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(小笠原 智)

●窪田さんとはビオトープ発足当初から不耕起水田作業で一緒でしたから色々なことが思い出されますが、昨年11月28日に収穫米を配布用に小分けする作業も一緒しました。その時は元気に今年の収穫米の美味しさとかレイソルの強さとかを冗談を交えながらしましたが、その米の配布、報告書作成では愚直なまでも念には念を入れて行い、その筋を通す人柄が特に印象に残っております。心よりご冥福をお祈りします。(影山賢三)

●髭と笑顔が素敵だった窪田さん。ビオトープをあの世から見守って下さい(高田昭治)

●窪田氏とは会発足時から稲作部会と一緒に。作業の間には柏レイソルの状況を時々話題にした。恒例となった収穫祭の幹事を窪田氏から引き継いで07年にやったが、前年の詳細な記録があって大いに参考になった。また、ビオトープを離れても、窪田氏から紹介された近くの農園で作物についてよく談笑したものであった。いつも身近にいた窪田氏が見えないのはさびしい限りである。千の風になって田の上、農園の上を吹きわたってほしい。(外川克之)

●桜も咲き始めました。田圃にはオタマジャクシも泳いでいます。ホテル池の柳も芽を吹いています。ビオトープにも若い仲間が増えました。もうすぐ田植えの準備も始まります。窪田さん、稲田をわたる爽やかな風になって私たちのところにも来て下さい。そして、いつまでも見守って下さい。(村川五郎)

●あの髭もじゃで、にこやかな顔立ちの窪田さんにもう会えません。いつも黙々と泥まみれになり、率先して動きまわり、人一倍も気配りをしながら精を出していた方だと思います。どうぞ安らかに。これからも名戸ヶ谷ビオトープをお見守り下さい。合掌。(藤平三郎)

●いつも元気な笑顔をありがとうございました。毎日を存分に楽しむ生き方をこれからも鑑とします。(森田裕子)

●初めてお会いしてから5年余り。最後にお目にかかったのは、去年の12月29日にレイソルの天皇杯決勝のチケットを買う列に並んだ時でした。短い期間でしたが、ビオトープを大人や子供の自然豊かな遊び場として軌道に乗せることができたのも、実直なお人柄、何事にも真面目に取り組む窪田さんがいらしたからこそと感謝しています。(上村憲治)

●時間ぎりぎり慌てて駆けつけると窪田さんはいつも作業服姿を整えられていました。髭を蓄えられた穏やかなお姿を見つけるとホッとして作業に取り掛ったものでした。窪田さんとお会いするもう一つの楽しみは柏レイソルを話題にできること。単身赴任先の沖縄で地元JFLチームのボランティアを始めたのも地元チームのレイソルのボランティアを長年されている窪田さんを見習ったことです。訃報を妻から知らされ本当に驚きました。尊敬すべき先輩を失った気持ちです。ご冥福を心よりお祈り致します。(佐藤清隆)

ビオトープの花

ビオトープの水田の中に最初に咲く花がタネツケバナです。名前の由来は、苗代の準備をするために種もみを水に漬(ツ)ける頃に花が咲くことにあります。水田に咲く雑草は、タネツケバナのような春咲きのものとコナギのような夏咲きのものがあります。夏咲きのものは大昔にイネと一緒にイネの原産地である熱帯地方から移入されたものです。一方、春咲きのものは北東アジアの湿地帯から移入されたもので、イネの伝播経路の途中でイネに混じって渡来したと考えられています。この広報誌が届く頃はタネツケバナの最盛期です。(佐々木光正)

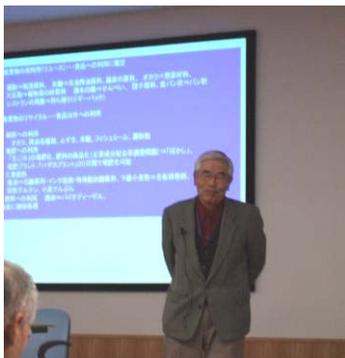


ビオトープと私 第5回

名戸ヶ谷ビオトープは、わたしにとって、庭の延長と言ってもいいでしょう。なにしろ、家を出て、坂を下ること約 100 メートルのところにあります。現在の地に引っ越してきてから 30 年近くになりますが、来るまでは家の近くに湿地帯があることすら知りませんでした。来てから、そこに「ホタルの里」と呼ばれる田圃などがあって、毎年 7、8 月に「ホタルの夕べ」という催しがあることがわかり、もちろん、出かけて行きました。10 年程も経つと、まだ木村のおじいさんは健在でしたが、ホタルはだんだん出なくなり、周辺の開発は一層進みました。残念に思っていたところ、ちょうど 2000 年の秋、ホタル復活を目指すという「柏ホタルの会」が発足し、それに参加したのがビオトープとの本格的な関わりの始まりでした。ホタルの会として、池を掘ったり水路づくりをしていたのですが、そのうち、この会「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」が発足し、自然な流れでそこへ参加することになりました。

以来、ビオトープはますます自分の家の庭の延長でもありますが、やはりここでの人との関わり、いろいろ知己を得たことが、最大の財産だと思います。(高田昭治)

講演「低炭素食生活のすすめ」に参加して



2009 年 3 月 4 日に「かしわ環境ステーション」に於いてエコライフ講座の一つとして行われました。講師として話されたのは名戸ヶ谷ビオトープの仲間の影山賢三さんです。日頃の努力に感銘を受けました。講演内容は、食生活での CO2 の発生は「食材の生産」、「貯蔵・輸送」、「調理・加工」、「廃棄」の過程で起こる。特に輸入が多く、食べ残しが多い日本の食生活の現状は問題。一人一人が関心を持ち、出来ることからただちに実行に移すことが必要とのお話に、参加者一同は現状に危機感を抱きました。日頃何気なく見過ごしている問題の深刻さを思い知らされた感銘深い講演でした。

尚、講演の後、DVD 食の未来「遺伝子組み換えで広がる緑の砂漠」を視聴しました。(才川寿磨)

編集後記

うららかな季節がまためぐってきました。桜の花もほころび始めました。田圃ではニホンアカガエルのオタマジャクシの元気に泳ぎまわる姿が見られます。田植えに備えてビオトープでは春の準備が始まっています。この間、稲作部会の中心として活躍されていた窪田孝志さんを突如失いました。今は亡き窪田孝志さんを偲び、会報の中の 1 ページを捧げました。皆様から数多くの言葉を寄せていただきました。文字サイズが小さくなりましたことをご了承ください。尚、奇しくも、前 35 号の「ビオトープと私」第 4 回が窪田さんの遺稿となりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌 (広報担当 春山)